

キーツ (Keitt)

育成者：Mrs. J. N. Keitt

育成地：Homestead, Florida, USA.

来歴：Mulgoba の自然交雑実生

特性

■栽培特性

樹勢はやや強く、樹は開張性。節間がやや長くて徒長気味に伸長した枝が下垂する。枝梢の太さは中程度である。葉の大きさは中程度、「アーウィン」よりも大きい。花は無限花序で小花の大きさは中程度、花穂枝や花卉にやや赤い色素を帯びるが、「アーウィン」のような紅色ではない。マンゴーの中でも豊産性で栽培環境への適応性も広く、耐病性、輸送性共に高い。世界市場に流通している晩生品種の中では最重要品種である。

■果実特性

果実の大きさは500～2000gで、マンゴーの品種中では大果系に属する。無胚の果実でも500g程度となる。果形は斜卵形、果梗部は斜球状、果頂部は丸く嘴はない。果皮色は黄緑色で陽光面に一部ピンク色を呈する。果面には多数の白色または黄色の小さな斑点がある。果肉は黄色で硬く、多汁で、ほのかに甘い香りを有し、果肉中の繊維は少ない。種子は単胚である。糖度はBrixで15～18度、酸は0.5%程度あり、食味は非常に良い。成熟期になっても果皮色が黄緑色のままで、収穫適期の判断が難しい。収穫後の追熟に2週間程度を要するが、この間に果実が乾燥しないように保護する必要がある。

■病虫害抵抗性および新増上の留意点

炭疽病に強く、輸送中の病害の発生も少ない。虫害に関してはハダニ類、チャノホコリダニ、スリップス類の発生に注意を要するが、その他、害虫に対する一般的な防除は必要である。

枝は自重で下垂する傾向があるので、水平になるよう誘引する。ハウス栽培では低木仕立てが基本であるが、本品種は比較的容易に低樹形が形成できる。しかし、節間が長く樹冠が広がりやすいので、水分供給を調節して節間を間延びさせないように注意する。また、収穫時期が遅くなる栽培では、収穫後の剪定により発生した新梢の充実が不十分だと、翌年の着花量が減少するので、果実生育中に翌年の予備枝を準備しておく必要がある。

熟期に果皮色の変化が少ないので、未熟果を収穫すると追熟しないで萎れてしまう。反対に過熟になると、果実中で種子発芽がみられ食味が低下する。「アーウィン」より約1ヵ月遅い収穫を目安とする。

■地域適応性

多湿な環境下では樹が徒長し、コンパクトな樹冠の維持は困難であるが、乾燥した気候下では比較的容易である。晩生品種であるため、本土では加温栽培しない場合には熟期が10月になる。不時着花もみられ、樹上越冬する場合には加温する必要がある。

(米本仁巳)